

あかし文化遺産マップ

中部編 大久保地域編

16 「アカシゾウ」発掘地



▲所在地:大久保町八木

昭和35年(1960)、当時中学生だった少年が、この崖からゾウの牙を発見し、その後一人で3年かけほぼ一頭分を掘り出しました。この化石をもとに初めて「アカシゾウ」の全身骨格標本が復元されました。「アカシゾウ」は今から約200~120万年前、この辺りが淡水湖であった頃に水辺に棲んでいた小型のゾウで、現在ではアケボノゾウと呼ばれています。

20 「明石原人」発見地



▲所在地:大久保町八木

昭和6年(1931)に直良信夫は西八木海岸の崖の崩れた所から化石になった人の腰の骨を発見しました。この骨は昭和20年(1945)の空襲で焼けてしまいましたが、その後石膏模型をもとに「明石原人」と名付けられ、大論争になりました。昭和60年(1985)には国立歴史民俗博物館により発掘調査が行われ、直良が発見したとされる西八木層(今から13~6万年前の地層)の中から人が加工したと見られる木器が見つかりました。



- [凡例]
- : 古代山陽道(推定)
 - : 近世山陽道(西国街道)・高砂道
 - ⊙: 学校
 - ⊙: 幼稚園
 - ⊙: コミュニティセンター

0 50 100 500m

